

Accuphase

6-CHANNEL POWER AMPLIFIER

6チャンネル・パワーアンプ

PX-600

取扱説明書



ご使用前に、この「取扱説明書」と別冊の「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。お読みになったあとは、お客様カードと引きかえにお届けいたします「品質保証書」と一緒に大切に保存してください。

このたびはアキュフェーズ製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

最高峰のオーディオ・コンポーネントを目指して完成されたアキュフェーズ製品は、個々のパーツの選択から製造工程、最終の出荷にいたるまで厳重なチェックを行い、その過程と結果の個々の履歴は、製品全体の品質保証に活かされています。このような品質管理から生まれた本機は、必ずやご満足いただけるものと思います。

末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

3年間の品質保証と保証書

当社製品の品質保証は3年間です。付属のお客様カードに必要事項を記入の上、お早めになるべく10日以内に返送ください。お客様カードと引きかえに品質保証書をお届けいたします。製品に関するお問い合わせや異常が認められるときは、当社品質保証部またはお求めの当社製品取扱店へ、直ちにご連絡ください。

尚、品質保証書につきましては日本国内のみ適用されます。

Accuphase warranty is valid only in Japan.

マークについて

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人身事故の発生する可能性や製品に重大な損害を生じる恐れがあることを示しています。お客様への危害や、機器の損害を防止するため、表示の意味をご理解いただき、本製品を安全に正しくご使用ください。



警告

この表示を無視して、誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う可能性があり、その危険を避けるための事項が示してあります。

注意

この表示を無視して、誤った使い方をすると、人が軽度の傷害を負う可能性や製品に損害を生じる恐れがあり、その危険を避ける為の事項が示してあります。

目次

1. 各部の名前	1
フロントパネル, リアパネル	1
2. 接続図	2
6チャンネル(5.1ch)演奏の接続例	2
3.  警告 安全上必ずお守りください /  注意	3
4. 各部の動作説明	4, 5
5. ブリッジ接続	6, 7
6. PX-600活用方法	8
2チャンネル(ステレオ)演奏の接続例	
ノーマル接続	8
ブリッジ接続	8
バイアンプ方式	9
4チャンネル(ダウンミックス)演奏の接続例	10
マルチアンプ演奏の使用例	
3ウェイ・マルチアンプ方式	11
2ウェイ+サブウーファー方式	12
サブウーファー方式	13
7. 保証特性	14
8. 特性グラフ	15
9. ブロック・ダイアグラム	16
10. 故障かな?と思われるときは	17
11. アフターサービスについて	18

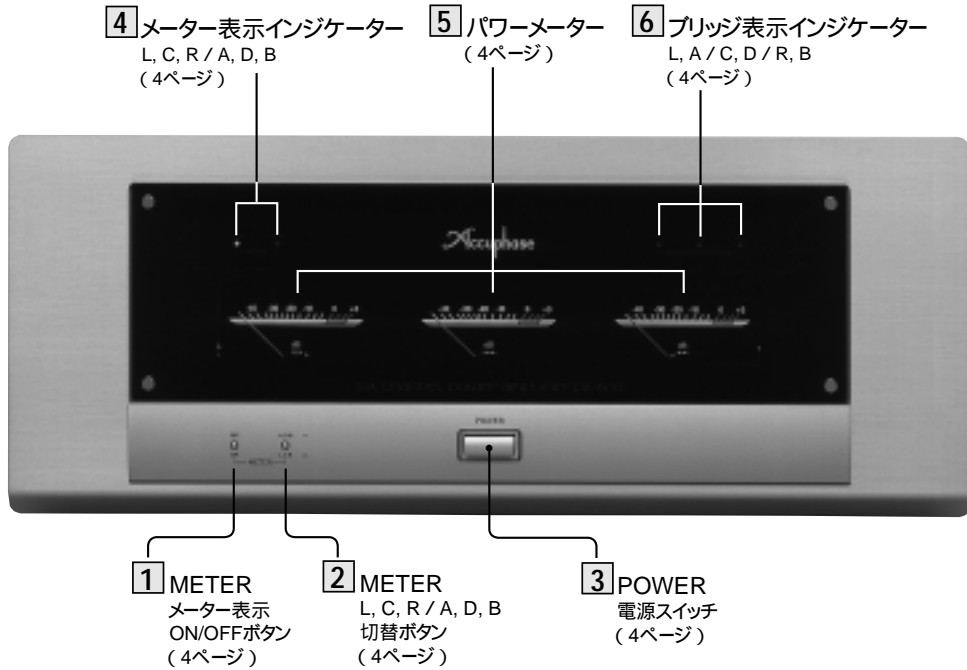
付属品を確認します

取扱説明書	1冊
安全上のご注意	1冊
AC電源コード(2m)	1本
お客様カード	1枚

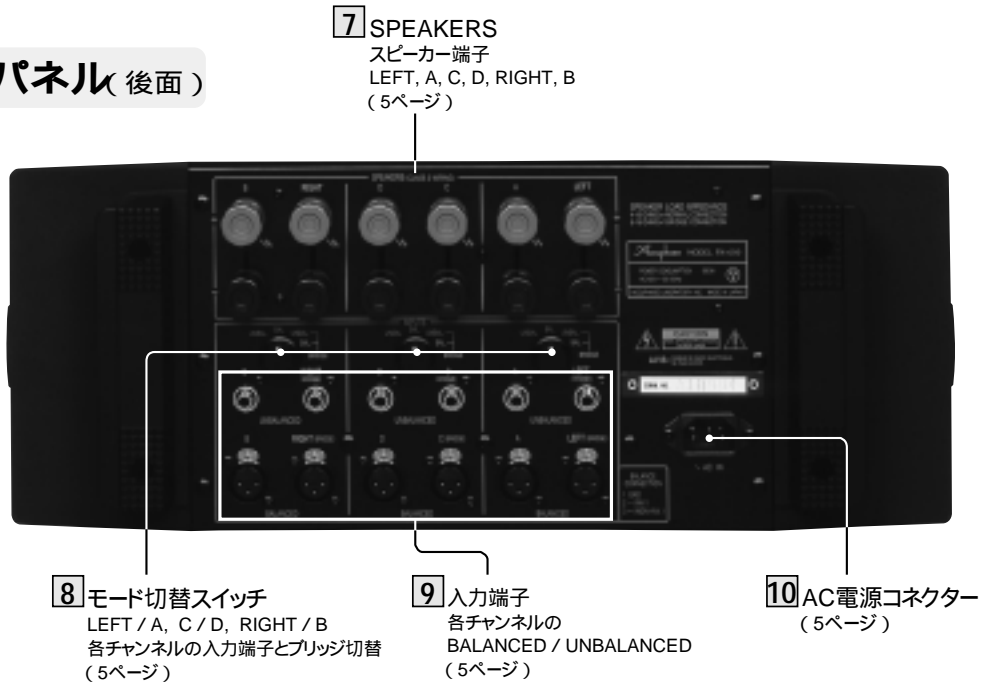
1. 各部の名前

詳しい説明は、各項目の()内のページを参照してください。

フロントパネル(前面)



リアパネル(後面)



2. 接続図



注意

: 接続するときは、必ず各機器の電源を切ってください。

6チャンネル(5.1ch)演奏の接続例

注意 オーディオケーブルは、シールド線(バランス用は2芯シールド)を使用してください。
 バランス用とアンバランス用ケーブルは、同一機器に同時に接続して使用しないでください。アースがループになって、ノイズを発生させる原因となります。

接続する機器によって、端子表示名が異なりますので、各取扱説明書を参照してください。

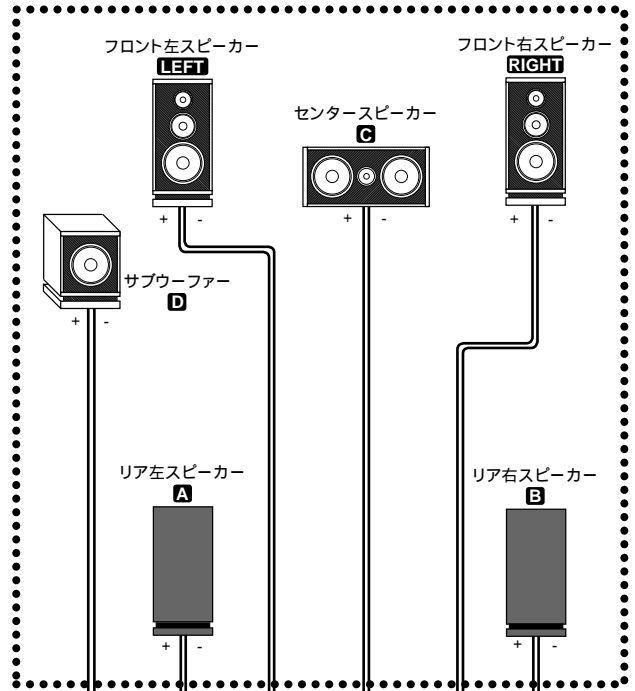
VX-700/CX-260とPX-600の接続は、同じ名称の端子どうしを正しく接続してください。

入力機器、スピーカーとVX-700/CX-260/PX-600の端子名

入力機器、スピーカー	VX-700,CX-260,PX-600の端子
フロント左チャンネル	LまたはLEFT
フロント右チャンネル	RまたはRIGHT
リア(サラウンド)左チャンネル	A
リア(サラウンド)右チャンネル	B
フロント・センターチャンネル	C
サブウーファー	D

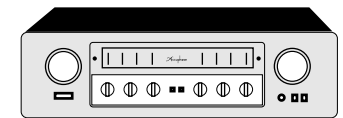
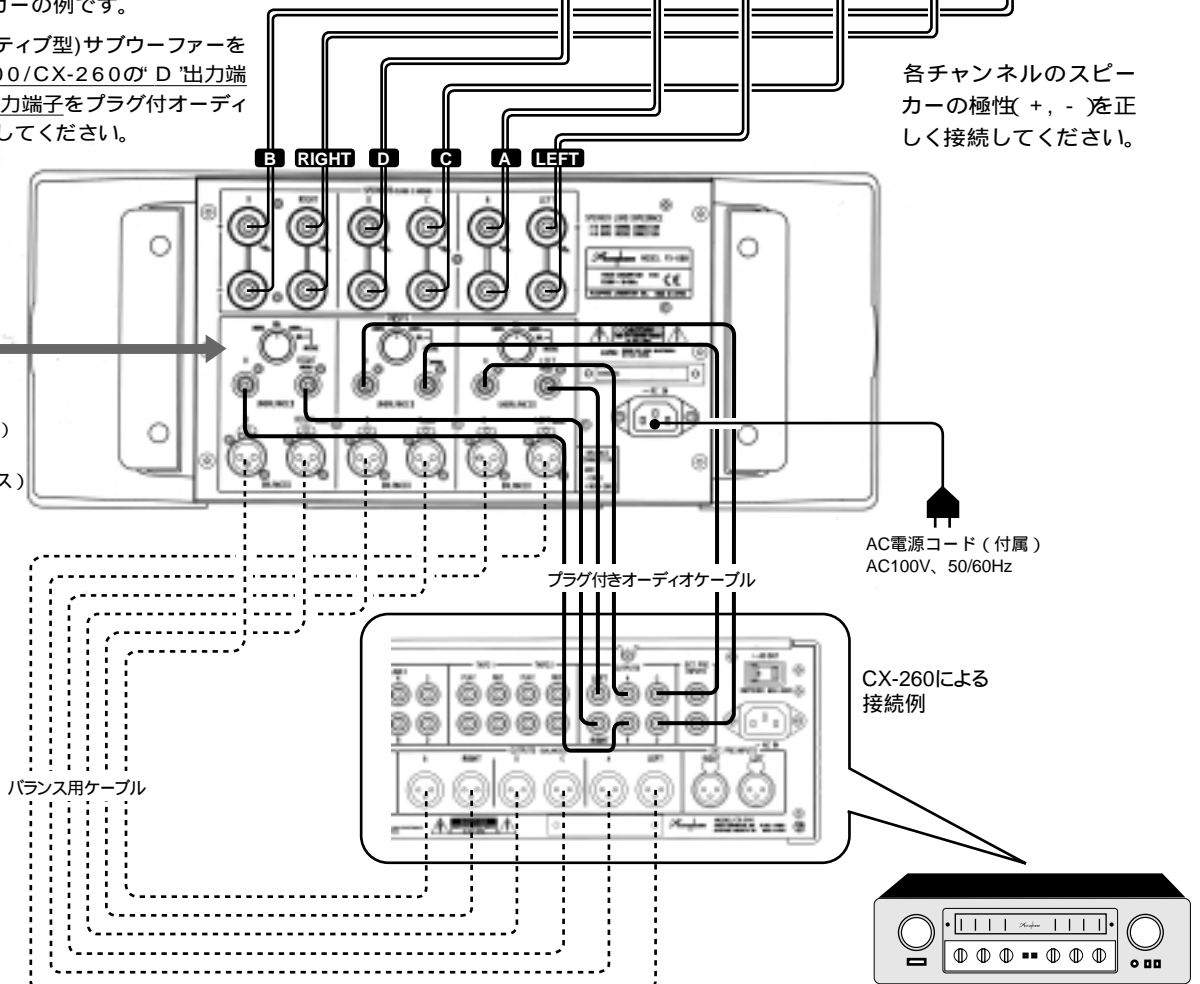
接続図のサブウーファーは、アンプを内蔵していない(パッシブ型)スピーカーの例です。

パワーアンプ内蔵(アクティブ型)サブウーファーを使用する場合は、VX-700/CX-260の「D」出力端子とサブウーファーの入力端子をプラグ付オーディオケーブルで直接接続してください。



各チャンネルのスピーカーの極性(+, -)を正しく接続してください。

モード切替スイッチ(3個)
 各入力の「BAL」(バランス)または「UNBAL」(アンバランス)を選択



プリアンプ
またはAVアンプ

3. 警告 安全上必ずお守りください

ご使用の前にこの『取扱説明書』と別冊の『安全上のご注意』を良くお読みの上、製品を安全にお使いください。

電源は必ずAC(交流)100V、50Hz/60Hzを使用する。

AC100V(50Hz/60Hz)以外で使用すると、感電や火災の原因となります。

電源コードは取り扱いを誤ると、感電や火災の原因となり危険です。

付属の電源コード以外は絶対に使用しないでください。

付属の電源コードには、プラグ側に接地用アース線が付いています。感電防止のため、このアース線を接地用ターミナルに接続すると、より一層安全です。接地ターミナルの工事は、電気工事店にご相談ください。

脚の交換は危険ですから行わない。取り付けネジが内部の部品に触れると、火災や感電、故障の原因になります。

トップ・プレートや底板は絶対にはずさない。内部に手などで触れると感電や故障の原因となり、大変危険です。

“ヒューズの交換”など内部の作業はお客様が直接行なうことはできません。必ず当社品質保証部または当社製品取扱店にご連絡ください。

次の場合には、まず本体の電源スイッチを切り、必ず電源コードをコンセントから抜く。そのまま使用すると火災や感電、故障の原因となります。発煙など異常がなくなったことを確認して、当社品質保証部または当社製品取扱店にご連絡ください。

内部に水や薬品がかかった場合。

内部に異物(ヘアピン、釘、硬貨などや燃えやすい物)が入った場合。

故障や異常(発煙やにおいなど)と思われる場合。落としたり、破損した場合。

注意

長期間ご使用にならないときは、安全のために電源プラグをコンセントから抜いてください。

次の場所に設置しない。故障や火災の原因となることがあります。

通風が悪く、湿気やほこりの多い場所

直射日光の当たるところ

暖房器具の近く

振動や傾斜のある不安定な場所

他の機器と直接重ねて使用しない。

放熱には、上下の自然対流による空冷方式を採用しています。他の機器と重ねて使用しないでください。

スピーカーコード、入・出力コードを接続する場合は、必ず各機器の電源を切る。

RCAタイプのピンプラグをジャックから抜き差しするときは、一瞬(-)側が浮いた状態になるため、大きなショック・ノイズを発生し、スピーカーを破損する原因となることがあります。

スピーカーコードの接続が不完全で、コードが外れて本体シャーシや入・出力端子に触れると、アンプの故障やショック・ノイズの原因となることがあります。

リアパネルのモード切替スイッチを切り替えるときは、必ず電源スイッチをOFFにしてください。

電源スイッチのOFF直後(10秒以内)に再びONしない。ノイズ発生などの原因となることがあります。

本機は消費電力が大きいため、十分に余裕のある室内のコンセントから直接電源をとってください。

入・出力端子などに接点保護剤などを絶対に使用しない。樹脂部が経年変化で破損して感電や故障の原因となることがあります。



お手入れ

お手入れの場合は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。

本体のお手入れは、柔らかい布を使用してください。固く絞った布で水拭きし、その後乾いた布で拭いてください。ベンジン、シンナー系の液体は、表面を傷めますので使わないでください。



4. 各部の動作説明

1 METER OFF - メーター作動ON/OFFボタン

押してOFF() :メーターの作動停止、照明ランプ消灯
再び押してON() :メーター作動、照明ランプ点灯

2 METER - メーター切替ボタン

メーターのA,D,BとL,C,Rを切り替えます。

押してA,D,B() : A,D,Bチャンネルのメーター表示
再び押してL,C,R() : L,C,Rチャンネルのメーター表示

LED	正面左のメーター	中央のメーター	正面右のメーター
A,D,B点灯時	A	D	B
L,C,R点灯時	LEFT	C	RIGHT

3 POWER - 電源スイッチ

押して電源が入り、再び押すと切れます。電源を入れてから回路が安定するまで、約5秒間はミュート回路が作動していますので出力はありません。

警告

内部をあけると危険です。

電源が入らなくなった場合には、内部で異常が発生した可能性があります。必ず電源プラグをコンセントから抜き、当社の品質保証部または当社製品取扱店へご連絡ください。

4 メーター表示インジケータ - L,C,R / A,D,B

[2]のメーター切替ボタンで選んだチャンネルのLEDの点灯が切り替わります。

5 PEAK POWER - ピーク・パワーメーター

メータースケールは出力レベルをdB(デシベル)で表示します。

8 出力を基準に、4 で2倍、16 の場合は1/2の値が出力になり、正弦波の場合には下記のような出力値になります。

メーター表示

	4 負荷	6 負荷	8 負荷	16 負荷
0dB	200W	150W	100W	50W
- 10dB	20W	15W	10W	5W
- 20dB	2.0W	1.5W	1.0W	500mW
- 30dB	200mW	150mW	100mW	50mW
- 40dB	20mW	15mW	10mW	5mW

このパワーメーターはピークレベル表示型になっていますので、きわめて短時間のうちに振幅や周期が変化している音楽や音声信号のピーク値をメーターが表示するように回路が構成されています。したがって、瞬時のピーク値を読み取りやすくするためにメーター指針の立ち上がり時間に比べて、帰りの時間が遅くなっています。また、プログラム・ソースにノイズがあったり、パルス性の信号が多く含まれている場合には、聴感上の音量感と多少違った感じになります。

ブリッジ接続の場合のメーター表示は6ページ参照

6 ブリッジ表示インジケータ - L,A / C,D / R,B

LEFT/Aチャンネル、C/Dチャンネル、RIGHT/Bチャンネルの各3系統のブリッジ接続が可能です。

リアパネルの[8]モード切替スイッチでブリッジを選択すると点灯します。

7 SPEAKERS - スピーカ端子

LEFT, RIGHT, A, B, C, D各端子に合計6系統のスピーカーシステムを接続することができます。

5.1ch演奏の場合は、2ページの接続図を参照して次のように接続します。

スピーカー	PX-600の端子
フロント左チャンネル	LEFT
フロント右チャンネル	RIGHT
リア(サラウンド)左チャンネル	A
リア(サラウンド)右チャンネル	B
フロント・センターチャンネル	C
サブウーファー	D

* インピーダンス4～16 のスピーカーを使用してください。

ブリッジ接続の場合は、6ページ参照

8 モード切替スイッチ

LEFTとA, CとD, RIGHTとBの3系統各チャンネルの入力端子 / ブリッジの切替スイッチです。

BRIDGEポジションは入力を選択と同時にブリッジ接続となります。

- UNBAL. : アンバランス(UNBALANCED)入力端子
- BAL. : バランス(BALANCED)入力端子
- UNBAL-BRIDGE : アンバランス(UNBALANCED)入力のブリッジ
- BAL-BRIDGE. : バランス(BALANCED)入力のブリッジ

9 INPUTS - 入力端子

プリアンプと接続する入力端子です。8モード切替スイッチで端子を選択してください。

UNBALANCED

通常のアンバランス入力端子です。

BALANCED

バランス出力を装備しているプリアンプからの信号は、このコネクタで受けてください。

- ピンの極性は : グラウンド
- : インバート(-)
- : ノン・インバート(+)

となっていますので、プリアンプとの極性を合わせて、正しく接続してください。

* VX-700/CX-260とPX-600の接続は、同じ名称の端子どうしを正しく接続してください。

* XLRコネクタ付きバランス用オーディオケーブルは当社で別売しています。

ブリッジ接続の場合は、6ページ参照

10 AC電源コネクタ

付属の電源コードを接続します。



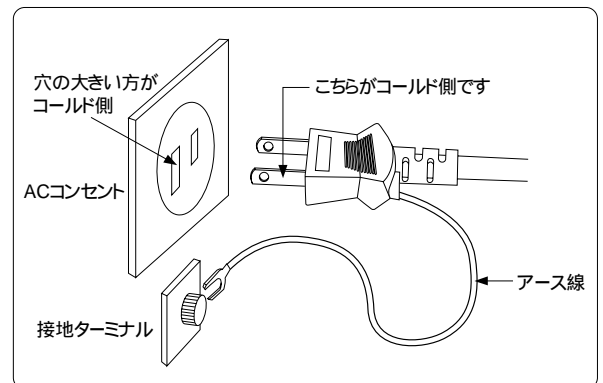
警告

電源は必ずAC100V、50/60Hz家庭用コンセントを使用する。

電源コードに付いているアース線の接続

付属の電源コードには、プラグ側に接地用アース線が付いています。感電防止のため、このアース線を接地用ターミナルに接続すると、より一層安全です。

接地ターミナルの工事は、電気工事店にご相談ください。



電源コードの極性について

本機は、トランスの巻き方向、部品の配線など極性を管理して、電源プラグのアース線が出ている方がコールド側になっています。機器の接続を統一したい場合は参考にしてください。

注意

室内コンセントの極性は一般に、向かって左側(穴が右に比べて大きい)がコールド側です。大地に対する電位は屋内配線の状況によって変化します。このためチェッカーなどを使用して測定した場合、電位が逆表示することがあります。

5.ブリッジ接続



注意

ブリッジ接続にするときは、必ず各機器の電源スイッチを切ってから接続してください。

PX-600はLEFT/A、C/D、RIGHT/Bチャンネルの3系統を任意にブリッジ接続にすることができ、3チャンネルの大出力アンプが可能です。

ブリッジ接続とは

2チャンネルアンプの各入力に、互いに逆位相の信号を入力して、プッシュプル駆動することにより、更に大出力(4倍)のモノフォニック・アンプにすることができます。本機は、リアパネルのモード切替スイッチをBRIDGE(UNBAL、BAL)側にしますと内部でブリッジ接続に切り替わります。

ブリッジ接続に切り替えた時

負荷インピーダンスは実際の負荷の半分になります。
インピーダンス6以上のスピーカーを使用してください。

ブリッジ接続にすると、1つのチャンネルに対する負荷インピーダンスは、実際の負荷の半分になります。例えば、8のスピーカーを接続したときは、チャンネルあたり4のスピーカーが接続されたときと同じになります。

増幅度について

ブリッジ接続にすると、スピーカーに加わる電圧(増幅度)が2倍になります。本機は、使いやすさを考慮して、ブリッジ接続にしても増幅度が変わらない設計になっています。

ダンピング・ファクターは半分になります

2チャンネルのアンプの出力回路が直列に接続されることになり、出力インピーダンスが2倍になりますので、ダンピング・ファクターは半分になります。

パワーメーターの表示

ブリッジにした両チャンネルのメーターが同一の指示をします。ただしこれは、正弦波のように対称波形入力の場合で、音楽や音声信号のようにパルス性の波形や非対称波形が入力された場合には、メーターの指針は同一の値を示しません。

スピーカーへの出力(メーターの指示値)は、ノーマル時(4ページ)の4倍になります。

	6 負荷	8 負荷	16 負荷
0dB	600W	400W	200W
-10dB	60W	40W	20W
-20dB	6W	4W	2W
-30dB	600mW	400mW	200mW
-40dB	60mW	40mW	20mW

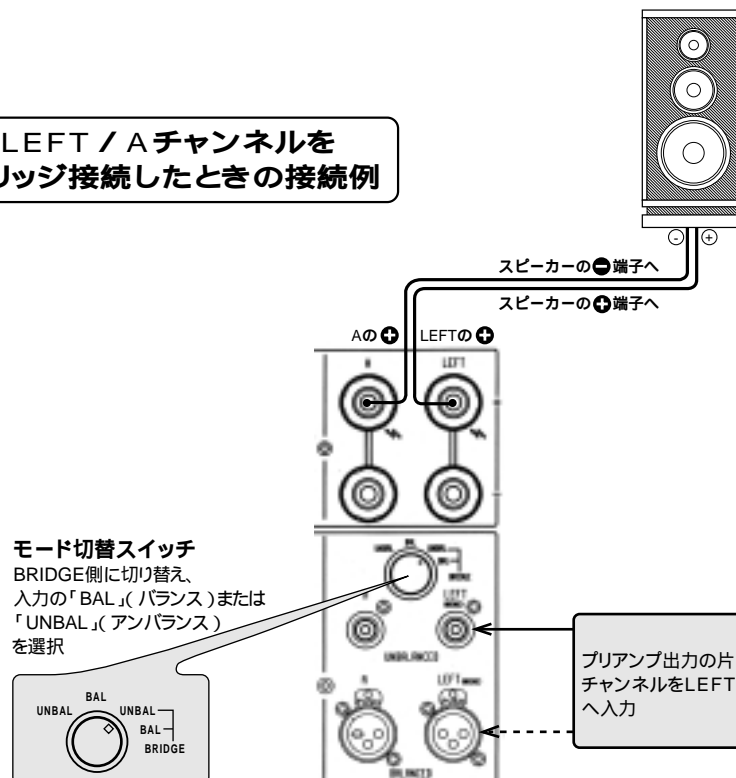
接続方法

- 1 PX-600の電源スイッチを切ります。
- 2 ブリッジにするチャンネルのモード切替スイッチをBRIDGE側に切り替えます。
- 3 同時にモード切替スイッチで入力端子の、UNBAL(アンバランス)またはBAL(バランス)を選択します。
- 4 入力信号は、下記の表のように各INPUTS端子の一方に入力します。
各スピーカーとPX-600のSPEAKERS端子とは下記の表に従って接続します。

	ブリッジにするチャンネル		
	LEFTとA	CとD	RIGHTとB
入 力	LEFT	C	RIGHT
スピーカーのプラス端子	LEFTの(+)端子	Cの(+)端子	RIGHTの(+)端子
スピーカーのマイナス端子	Aの(+)端子	Dの(+)端子	Bの(+)端子

注意: PX-600のSPEAKERS端子の(-)側には何もつながないでください。

LEFT / Aチャンネルをブリッジ接続したときの接続例



6. PX-600 の活用方法

6チャンネル(5.1ch)演奏の接続例は2ページ参照。

接続の注意 ブリッジ接続をしない場合は、インピーダンス4 以上のスピーカーを使用してください。
 ブリッジ接続の場合は、6 以上のスピーカーを使用してください。
 ブリッジ接続の詳細は、6, 7ページを参照してください。
 入・出力端子のLEFT / RIGHT、スピーカー端子やスピーカーの極性(+)、(-)を正しく接続してください。

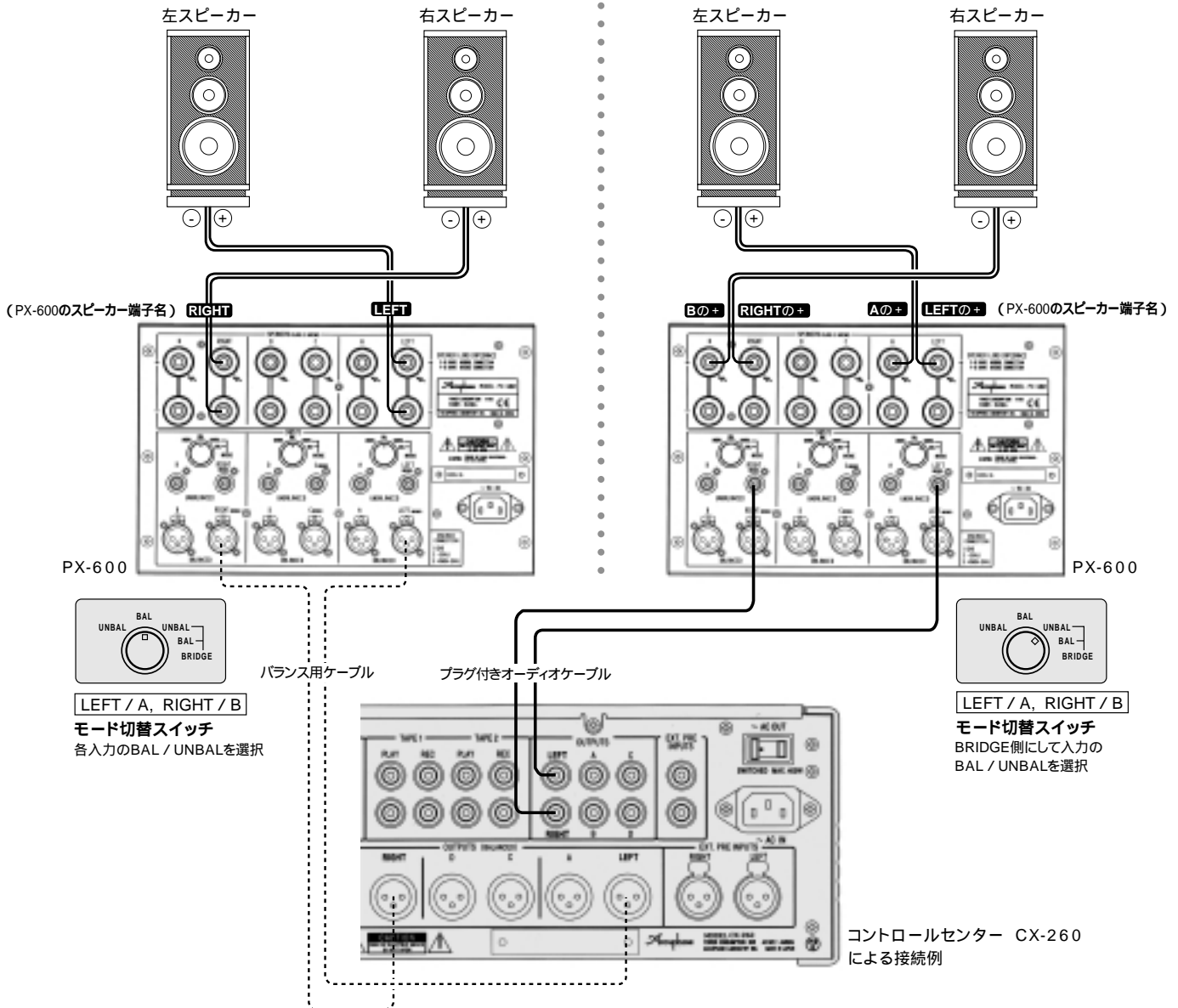
2チャンネル(ステレオ)演奏の接続例

ノーマル接続

6チャンネルの中から任意の2チャンネルを選択してスピーカーと接続します。
 他の4チャンネルのブロックは使用しないため、6チャンネル全て動作するときと比べて、大きな出力を取り出すことができます。(8 :130W×2, 4 :220W×2)

ブリッジ接続

LEFT/A, C/D, RIGHT/Bをブリッジ接続することができます。その中から任意の2チャンネルを選択してスピーカーと接続します。
 出力は、8 :350W×2, 6 :420W×2。



バイアンプ方式

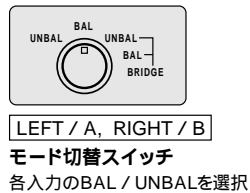
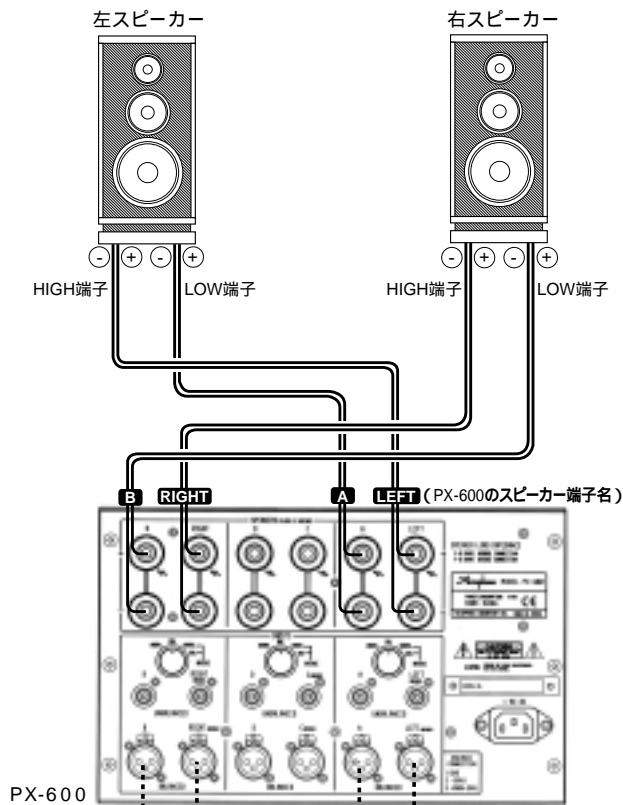
バイアンプ方式は、LOW(低域)側とHIGH(高域)側のスピーカー・ユニットを別々のアンプで駆動し、高音質の演奏を楽しむことができます。

ネットワークを内蔵し、端子がLOW/HIGH分離しているスピーカーが必要です。

2系統の出力を持つプリアンプから、PX-600それぞれのチャンネルに入力します。

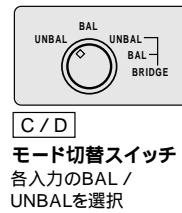
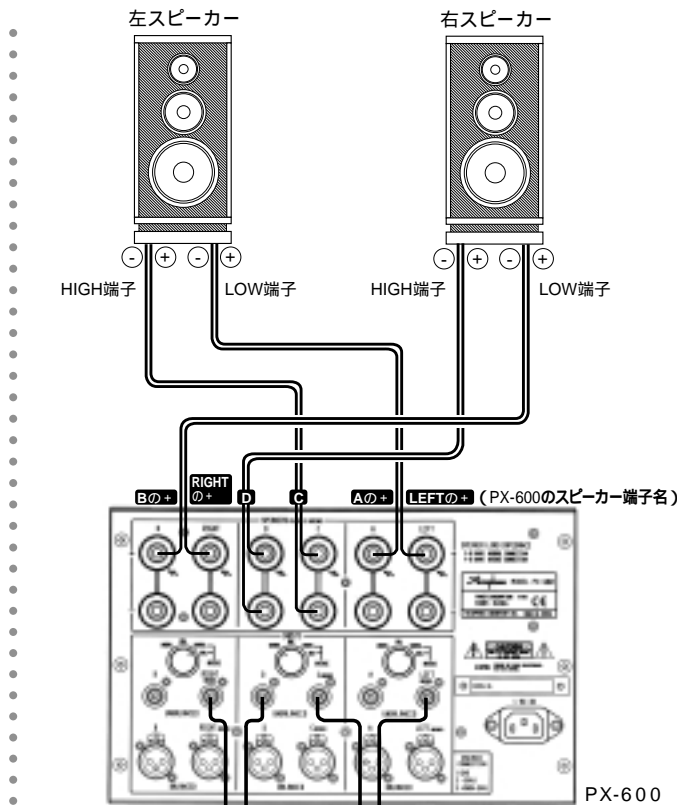
入・出力端子のLEFT / RIGHTは、正しく接続してください。

任意の4チャンネルを使用した接続例

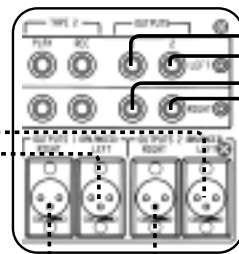
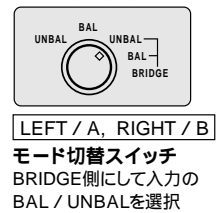


バランスケーブル
RIGHT LEFT

LOW(低域)側をブリッジにした接続例



プラグ付きオーディオケーブル
RIGHT LEFT



4チャンネル(ダウンミックス)演奏の接続例

コントロールセンターCX-260は、6チャンネル(5.1ch)ソースを4チャンネルにダウンミックスして演奏するDOWN MIX機能を装備しています。入力した6チャンネル信号の内、センターチャンネル(C)とサブウーファー信号(D)を、フロント側LEFTとRIGHTチャンネルに振り分け、フロント2/リア2の合計4チャンネルで演奏が可能です。スクリーン等でセンター・スピーカーの設置が難しい場合や部屋の関係でサブウーファーを置けない場合でも、5.1chソースのサラウンドを楽しむことができます。

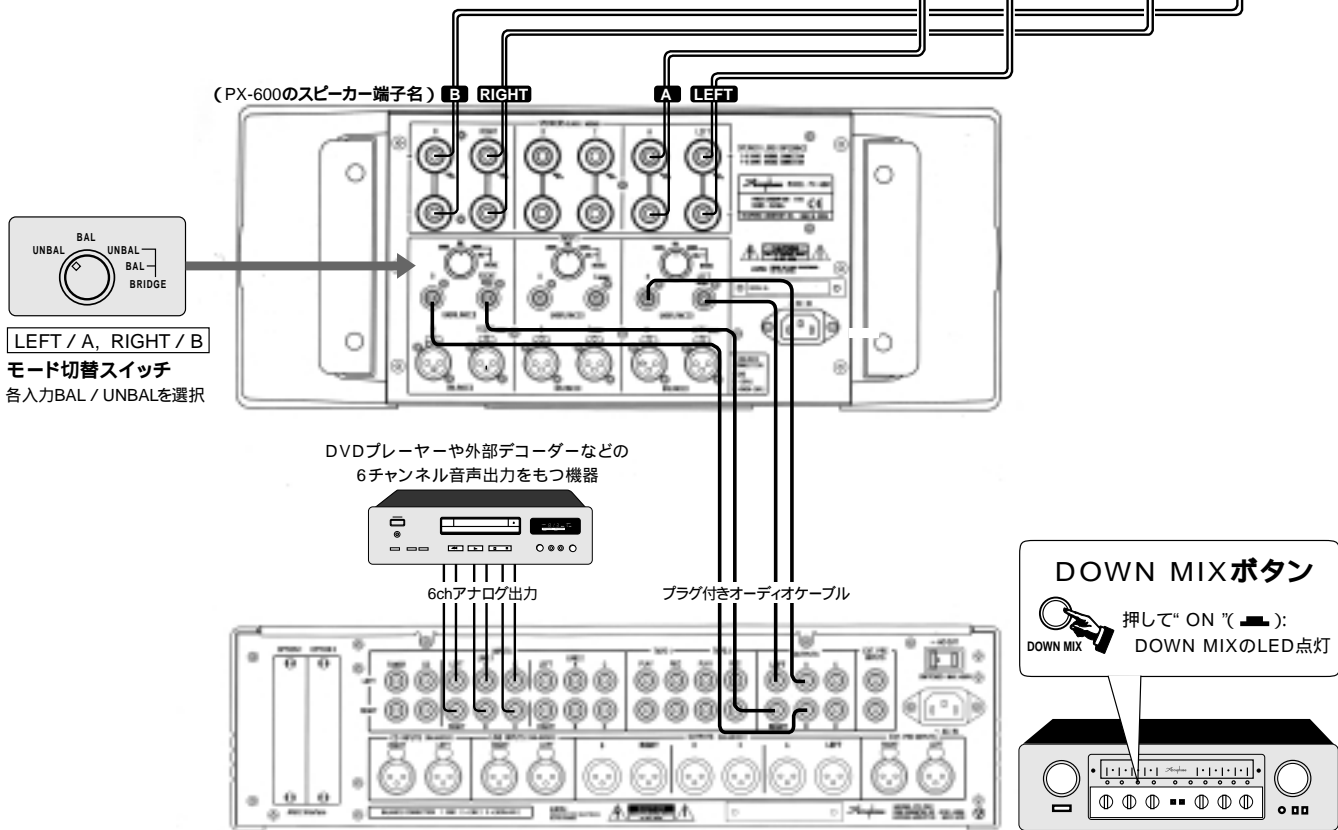
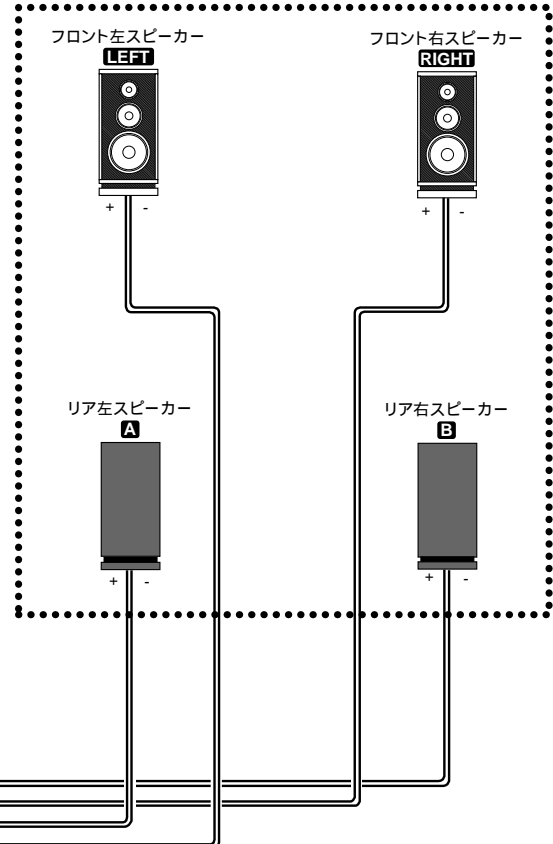
CX-260のLINE1または2に、6チャンネル(5.1ch)アナログ音声を入力します。CX-260のDOWN MIXボタンをONにします。

入力信号	CX-260のINPUTS	DOWN MIX時の信号 (CX-260のOUTPUTS)	PX-600のスピーカー端子
フロント左	LEFT	LEFT + C + D	LEFT (LEFT + C + Dのミックス信号)
フロント右	RIGHT	RIGHT + C + D	RIGHT (RIGHT + C + Dのミックス信号)
リア(サラウンド)左	A	A	A
リア(サラウンド)右	B	B	B
フロント・センター	C	-	-
サブウーファー	D	-	-

注意 (印): DOWN MIXボタンON時でも、CX-260のC/D出力端子にはCおよびDチャンネル信号が出力されています。C/D端子はPX-600と接続しないでください。

- * CX-260とPX-600の接続は、バランス接続も可能です。
- * フロント左・右スピーカーは、ブリッジ接続も可能です。

詳しくは、CX-260の取扱説明書参照



コントロールセンター CX-260による接続例

マルチアンプ演奏の使用例

マルチチャンネル・ディバイダーF-20, F-25V, DF-35などと組み合わせて接続します。
 詳しい動作・説明・接続は、それぞれの取扱説明書を参照してください。

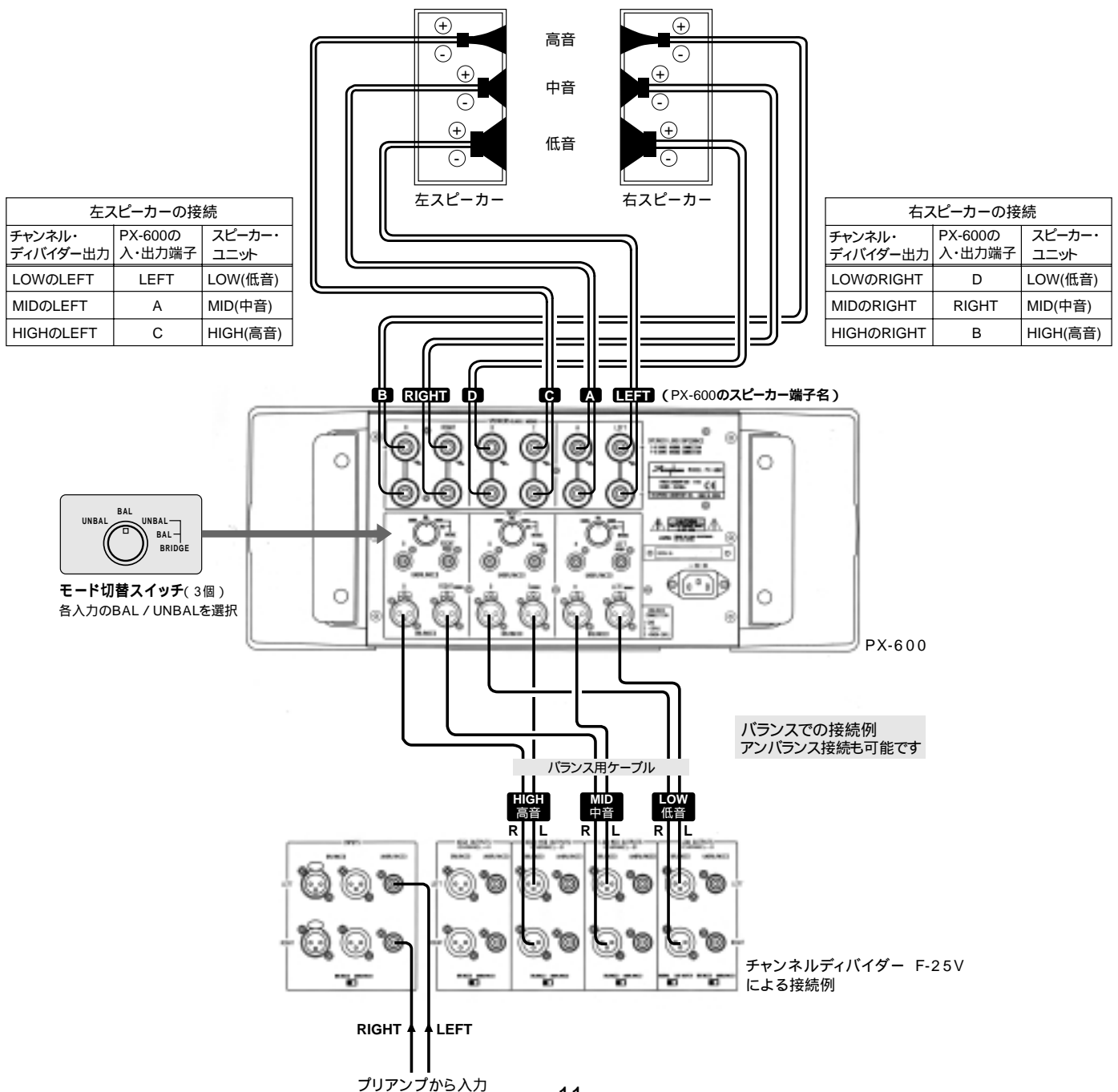
3ウェイ・マルチアンプ方式

6チャンネルのアンプを全て使用します。

任意のチャンネルと任意のスピーカー・ユニットを接続できますが、チャンネル・ディバイダーのLOW/MID/HIGH出力やLEFT/RIGHTの接続は正しく接続してください。

2ウェイ・マルチアンプ方式で使用する場合は、任意の4チャンネルのアンプを使用します。

ネットワークを内蔵していないスピーカー・システムが必要です。PX-600各チャンネルの出力を各音域のスピーカー・ユニットへ直接接続します。



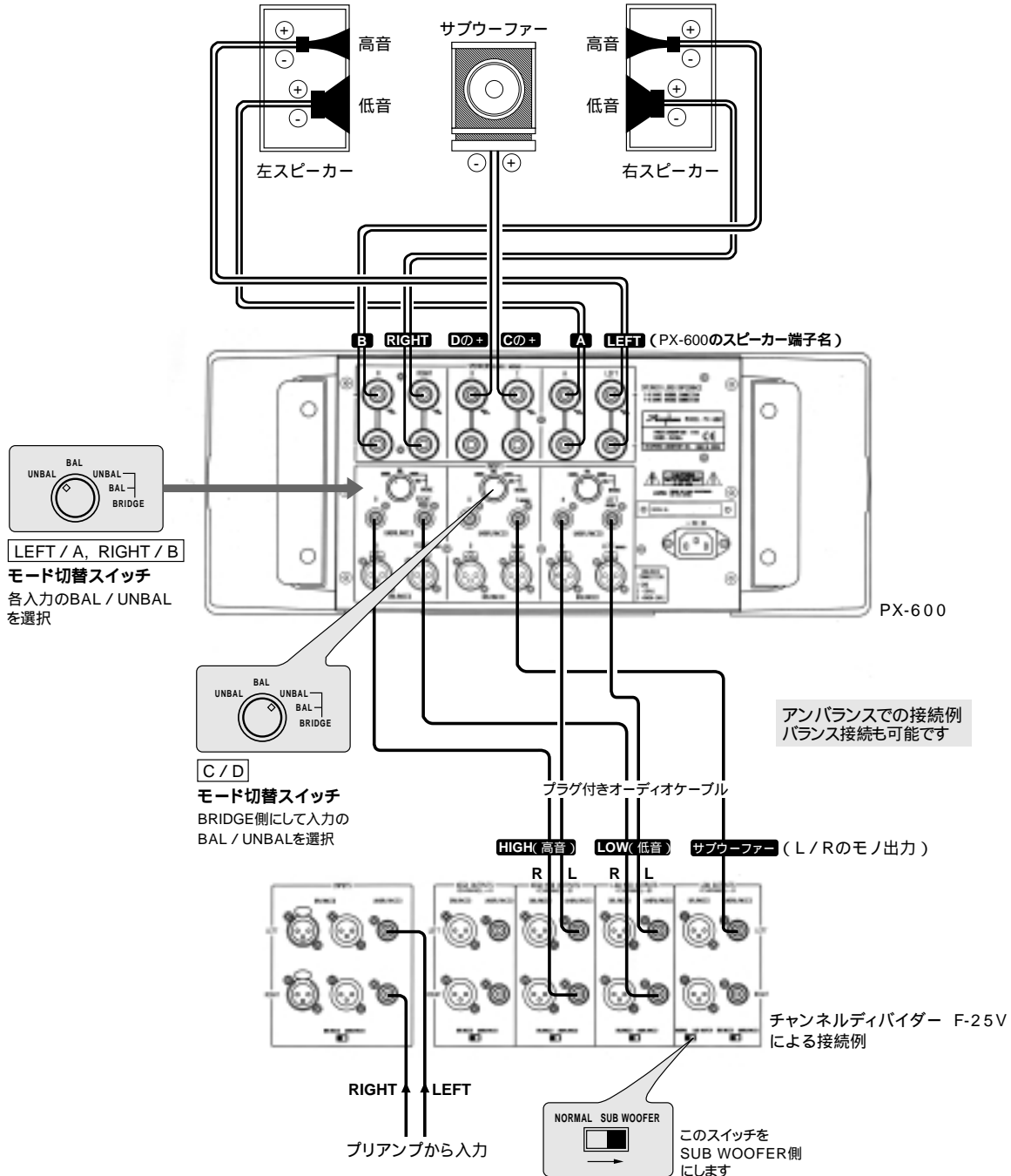
2ウェイ + サブウーファー方式

2ウェイ・マルチアンプ方式にサブウーファーを追加した接続例です。

サブウーファー信号を、C / Dチャンネルでブリッジ接続にして、6チャンネル全てを使用した例です。

左右のスピーカーは、ネット・ワークを内蔵していないスピーカー・システムが必要です。

サブウーファーは、パワーアンプを内蔵していない(パッシブ型)スピーカーを使用してください。

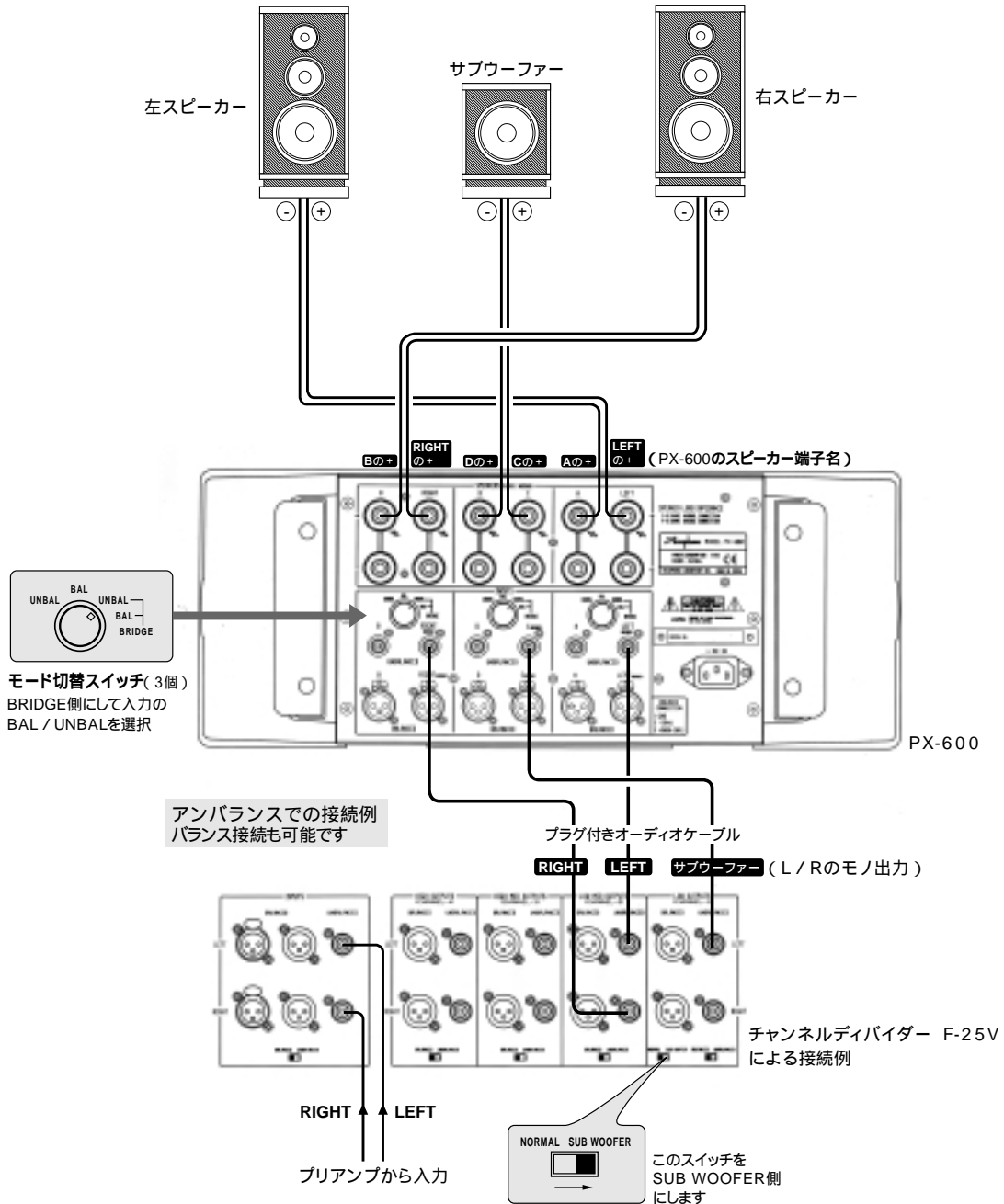


サブウーファー方式

通常のステレオ演奏にサブウーファーを追加し、3チャンネルともブリッジ接続にした接続例です。

出力は8 : 300W×3となります。

サブウーファーは、パワーアンプを内蔵していない(パッシブ型)スピーカーを使用してください。



7. 保証特性

[保証特性はEIA測定法RS-490に準ずる]

定格連続平均出力(20 ~ 20,000Hz間)

注意: 印の負荷は、音楽信号に限る。

		B	RIGHT	D	C	A	LEFT
6ch	4	150 W	150 W	150 W	150 W	150 W	150 W
	6	125 W	125 W	125 W	125 W	125 W	125 W
	8	100 W	100 W	100 W	100 W	100 W	100 W
3ch	4	160 W	160 W	160 W	-	-	-
	6	140 W	140 W	140 W	-	-	-
	8	120 W	120 W	120 W	-	-	-
3ch (Bridge)	4	-	-	-	-	-	-
	6 ()	320 W		320 W		320 W	
	8	300 W		300 W		300 W	
2ch	4	-	220 W	-	-	-	220 W
	6	-	160 W	-	-	-	160 W
	8	-	130 W	-	-	-	130 W
2ch (Bridge)	4	-	-	-	-	-	-
	6 ()	420 W		-		420 W	
	8	350 W		-		350 W	

注意: 表の3ch、2ch、2ch(Bridge)の出力は、任意のチャンネルの出力値を示します。

全高調波ひずみ率

6チャンネル仕様時

0.15% 4 負荷

0.1% 6 ~ 16 負荷

3チャンネル仕様時(ブリッジ接続)

0.05% 6 ~ 16 負荷

IMひずみ率

0.003%

周波数特性(全てのチャンネルにおいて)

定格連続平均出力時: 20 ~ 20,000Hz +0 - 0.2dB

1W出力時 : 0.5 ~ 160,000Hz +0 - 3.0dB

ゲイン(利得)(全てのチャンネルにおいて)

28.0dB

負荷インピーダンス

6チャンネル仕様時 4 ~ 16

3チャンネル仕様時(ブリッジ接続) 6 ~ 16

注意: ブリッジ接続の6 は、音楽信号に限る。

ダンピング・ファクター

100(ノーマル使用時)

50(ブリッジ接続時)

入力感度(8 負荷)

6チャンネル仕様時 1.12V 定格連続平均出力時
0.11V 1W出力時

3チャンネル仕様時(ブリッジ接続時)

1.95V 定格連続平均出力時
0.11V 1W出力時

2チャンネル仕様時 1.28V 定格連続平均出力時
0.11V 1W出力時

2チャンネル仕様時(ブリッジ接続時)

2.10V 定格連続平均出力時
0.11V 1W出力時

入力インピーダンス

40k バランス

20k アンバランス

S/N(A補正、入力ショート)

120dB 定格連続平均出力時

出力メーター

- 40dB ~ + 3dB

対数圧縮型、表示消灯機能付

電源

AC100V 50/60Hz

消費電力

166W 無入力時

690W 電気用品安全法

1,070W 8 負荷定格出力時

最大外形寸法

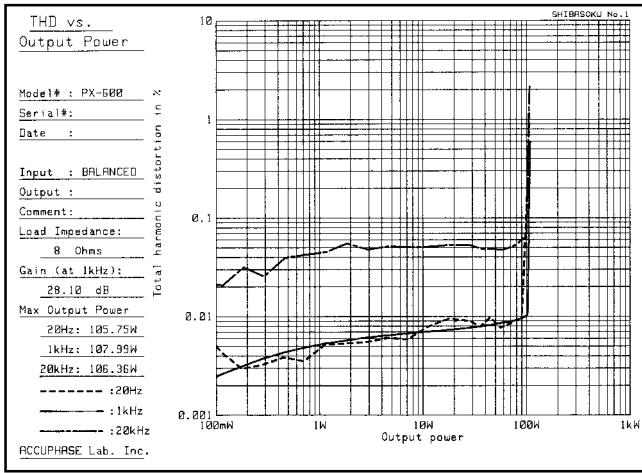
幅475mm×高さ211mm×奥行459mm

質量

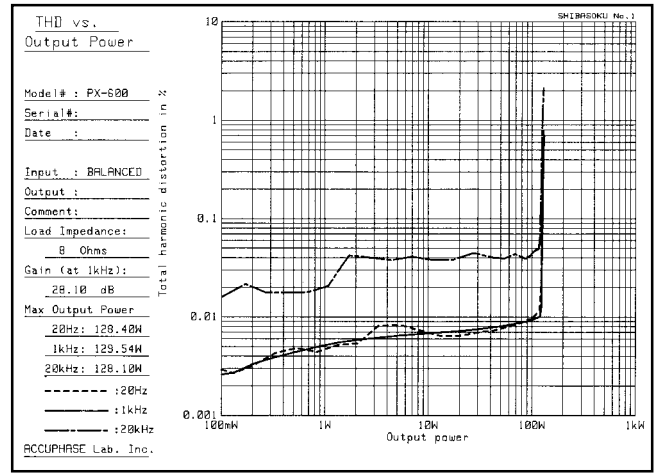
31.2kg

* 本機の特長および外観は、改善のため予告なく変更することがあります。

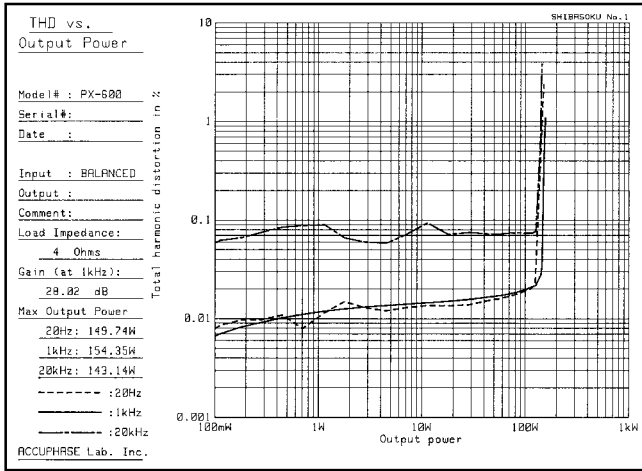
8. 特性グラフ



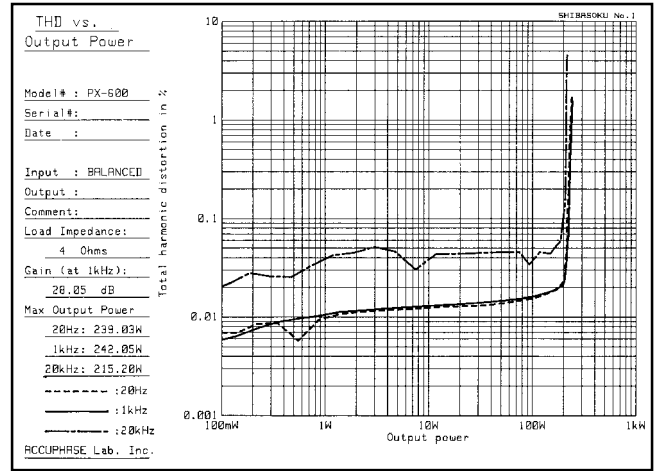
出力電力 / 全高調波ひずみ率特性
(8 負荷、6チャンネル動作時)



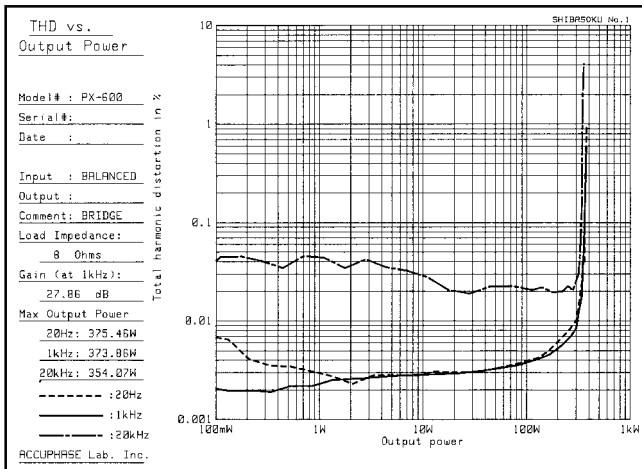
出力電力 / 全高調波ひずみ率特性
(8 負荷、3チャンネル動作時)



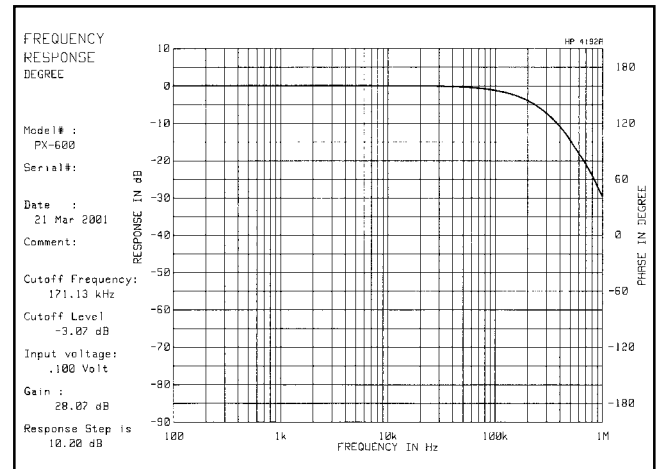
出力電力 / 全高調波ひずみ率特性
(4 負荷、6チャンネル動作時)



出力電力 / 全高調波ひずみ率特性
(4 負荷、2チャンネル動作時)

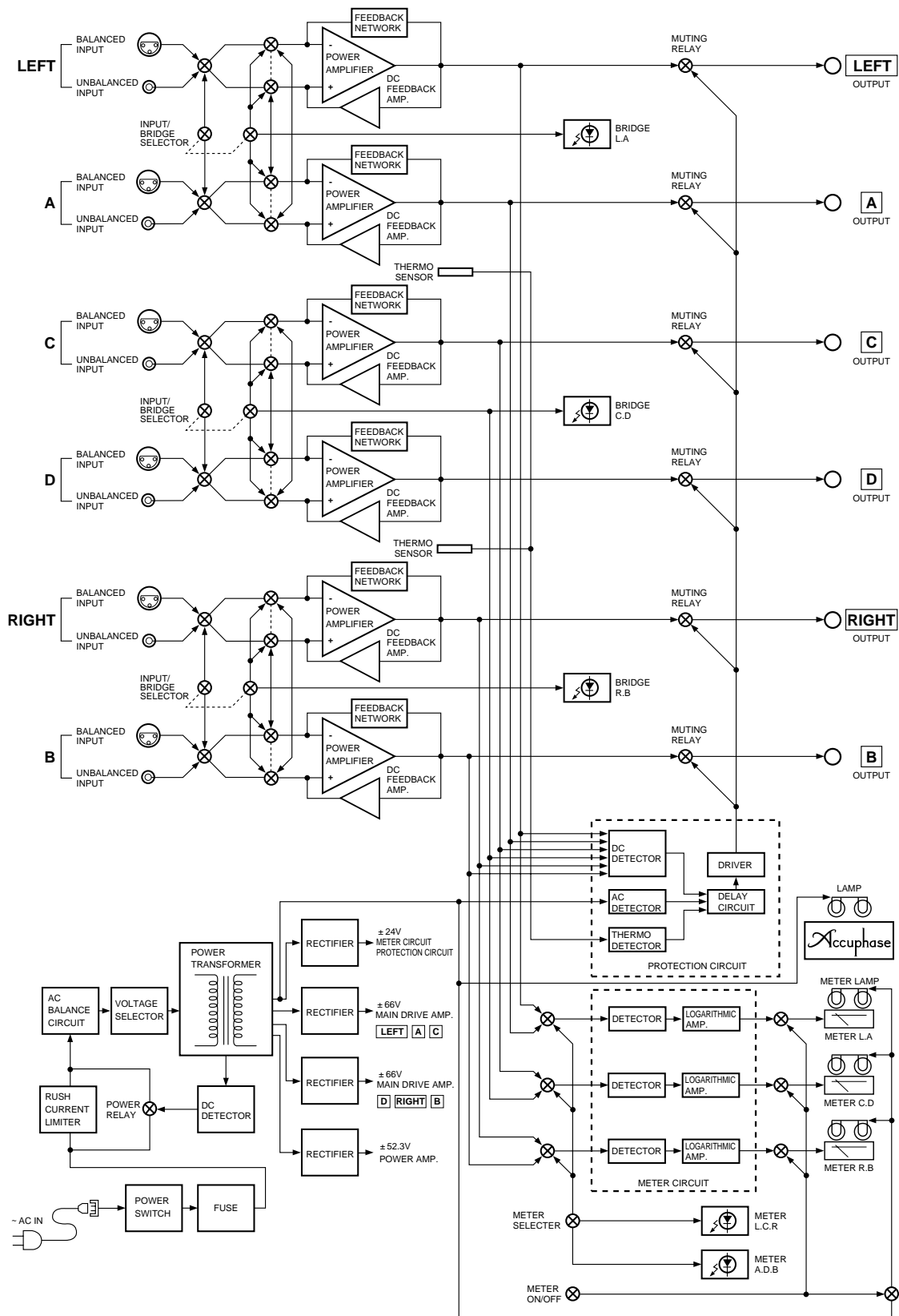


出力電力 / 全高調波ひずみ率特性
(ブリッジ、8 負荷、2チャンネル動作時)



周波数特性

9. ブロック・ダイアグラム



10. 故障かな?と思われるときは

故障かな?と思われるときは、修理を依頼される前に、下記の項目をチェックしてください。
これらの処置をしても直らない場合には、当社品質保証部または当社製品取扱店にご連絡ください。

 **注意**：接続を変える場合には、必ず各機器の電源を切る。

電源が入らない

電源コードが抜けていませんか。

音がでない

プリアンプなどのソース側の電源は入っていますか。
プリアンプやスピーカーなどと正しく接続されていますか。
入力端子切替スイッチの位置を確認します。

片側のスピーカーから音がでない

接続コード、スピーカー・コードは正しく接続されていますか。
プリアンプなどソース側のスイッチ類は正しい位置ですか。
(とくにバランス・コントロールの位置)
スピーカー・コードを左右入れ替えます。
同じスピーカーから音がでない.....コードとスピーカーのチェック
左右逆の状態になる.....本機やプリアンプ側に原因が考えられます。
次に入力接続コードを左右入れ替えます。
同じスピーカーから音がでない.....本機に原因が考えられます。
左右逆の状態になる.....コードやプリアンプ側に原因が考えられます。

メーターは振れるが音が出ない

スピーカーと本機のスピーカー端子が、正しく接続されていますか。

音は出るがメーターが振れない

METER切替ボタンの、切り替えが正しい位置ですか。

ブリッジ接続で音が出ない

モード切替スイッチは、BRIDGE側ですか。
入・出力端子は、正しく接続されていますか。(7ページ参照)

定位感がはっきりしない

本機とスピーカー端子の極性(+ ⅸ -)は正しく接続されていますか。
バイアンプ方式やマルチアンプ方式では、パワーアンプとスピーカー端子名LEFT / RIGHT
が正しく接続されていますか。

11. アフターサービスについて

保証書

保証書は本体付属の「お客様カード」の登録でお送りいたします。

保証書の記載内容により、保証期間はご購入日から3年間です。

保証書がない場合には、保証内修理をお断りする場合があります。よくお読みのうえ、大切に保存してください。

オプション・ボードやオプション・ユニットにはお客様カードは付属していません。

保証期間が過ぎてしまったら

修理によって性能を維持できる場合には、ご希望により有料で修理いたします。

補修部品の保有期間は経済産業省指導により、製造終了後最低8年間となっています。

使用期間が相当経過している場合には、当社品質保証部にお問い合わせください。

保証期間以降、長期に渡ってご使用の場合には、当社の定期的な点検をお勧めします。

その他

改造されたものは修理ができない場合がありますのでご了承ください。

本機の故障に起因する付随的損害(営利的使用に関する諸費用、使用により得られる利益の損失等)については補償できません。

AC100V以外(海外)では使用できません。

保証は日本国内のみ適用されます。

Accuphase warranty is valid only in Japan.

お問い合わせは

ご質問、ご相談は当社品質保証部または当社製品取扱店にお願いいたします。

アキュフェーズ株式会社 品質保証部
〒225-8508 横浜市青葉区新石川2-14-10
TEL 045(901)2771(代表)
FAX045(901)8995

当社のホームページ上でも修理の問い合わせが可能です。

<http://www.accuphase.co.jp/>

修理依頼の場合には

“故障かな?と思われるときは”をご確認後、直らない場合には、電源プラグをコンセントから抜き、修理を依頼してください。

次の内容をお知らせください。(保証書参照)

モデル名、シリアル番号

ご住所、氏名、電話番号

ご購入日、ご購入店

故障状況:できるだけ詳しく

梱包材は、輸送時に必要となりますので、保管しておいてください。



ACCUPHASE LABORATORY INC.

アキュフェーズ株式会社

横浜市青葉区新石川2 14 10

〒225 8508 TEL(045)901 2771(代)